

公共空間の設えと緑の満足度の関係

～緑化された街路空間における利用者の行動分析～

大山 亮

公共空間の設えと利用者のアクティビティにはどのような関係があるだろうか。既往研究では、利用者属性と場所との関係を研究しているものはあったが、それらとアクティビティとの関係を調査するものは少ない。

本研究では、公共空間の設えと利用者のアクティビティの関係について明らかにする。調査は、グリーン大通り（豊島区池袋）内の3つのエリアを対象地域として、各エリアでベンチに座っている利用者のアクティビティを観察した。

調査の結果、グリーン大通りでは休日より平日の方がベンチの利用者が多かった。また平日、休日ともにアクティビティの偏りがあることがわかった。グリーン大通りはオフィス街にあるため、平日の方が多く使われていたと考えられた。また、時間帯的には日差しが強く、木陰がないところもあったためベンチが使われていない時間帯もあると考えられる。

今回の研究では、ベンチに座る利用者のアクティビティのみ調査したが、ベンチの周りなどでは、立ち話や電話する姿などベンチ以外でのアクティビティも見られた、それらの人々の調査をすることでまた違う結果になると思われるため今後の課題とする。